

2024年9月29日（聖霊降臨後第19主日、特定21、B年）

牧師メッセージ

「名」を巡る争い

（マルコによる福音書9:38-50）

司祭ヨセフ太田信三

観光地で名物のお土産物を買おうとすると、「本家～」「元祖～」「～本舗」などと書かれた同じようなものが売られていることがあります。一体どれが本物なのかと戸惑ってしまいます。ラーメン屋さんもそういうことがよくあります。様々な事情があるのだと思いますが、「お家騒動」などと騒ぎ立てる報道を見ることもあります。伝統や権威ある「名」はそれだけで大変な価値がありますから、人々はそれを求めて争います。「名」の権威を求めての闘いです。

今日の福音書では、主イエスの弟子のヨハネが主イエスに訴えます。内容は、主イエスの名によって悪霊を追い出している人がいたけれども自分たちに従わないからやめさせようとした、というものです。これを聞いた主イエスは、やめさせてはならない、と言ってヨハネを諭しました。

ヨハネは自分たちが本家であり、家元の主イエスと自分は一心同体だという具合に思っていたのでしょう。勝手に家元の名を語るなんて許せない。まさに「名」を巡る争いの始まりです。けれども主イエスは、その者もまた弟子たちと同じように神を信じ、主イエスの名によっているならそれで良い、と言うのです。それどころか、そのように争って人をつまづかせるなんて、あってはならないと言われます。

「キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける」と主イエスは言われます。わたしたちがクリスチャンとしていただく恵みは、主イエスの名によるものです。それを自分たちだけで独占しようとしたり、他者や他のグループに対して不寛容になってしまうのは、それらの恵みが自分の正しさゆえだと勘違いしたり、自分たちこそ正統なのだと、どこか意識しているからではないでしょうか。その思いが自分自身を主イエスの「名」から遠ざけるつまづきとなります。そればかりか、「こちらは正しく、あちらは違う」という勘違いによる裁きが他者をつまづかせ、キリストの道から人々を遠ざけるものとなってしまいます。自分自身のうちにあるそういう思いを断ち切り、あまねく降り注ぐ主イエスの「名」による恵みを、例外なくすべての人と感謝して受け取り、喜びあうことができますように。